方城

第五巻　第三号

発行所　方城村公民館
編集発行人　荒木良和
印刷所　講印刷有限会社
（旧西尾印刷有限会社）

◇募集原稿◇

一、論文隨筆創作評論何もで建設的なもの（取捨は編集部に一任）
二、詩歌俳句川柳一人二首二句
三、投稿〆切毎月五日
四、投稿先方城村公民館

# 農村自治の確立には強力なる指導力を

高津久雄

過日は御通信有難度う。懐旧の情禁じ難きものがありましたよ。在鮮当時のことが、事に付け、機に触れて今尚脳裡を去來して居ります。然し過去は過去、現在は現在です。貴下の近況に應えて、村に対する私の感想の一端を書き送ることに致します。私は未だ事実を確めた訳ではありませんが、私の村、方城村は、全國で鉄道の通じていない極く少数の村の中の一つであると云うことであります。定期バスも現在の所、村の入口まで來ている程度で、之が村内への延長は今後の問題にかゝつて居る有様であります。伊田線金田駅に下車、それから村役場まで約一里の坂道を徒歩で通う交通不便の村であります。東部に福智山に連る山々を負い、三菱方城鉱業所を、扇の要として、南北に展開している農村であります。

近代設備になる三菱炭坑の御蔭で、村は一五、〇〇〇余の人口を擁し、村自体の財政は必ずしも貧弱ではないようです。往時は川筋氣質と云うか、炭坑氣分に依るあらつぽい氣分が炭坑を中心として漂うていた時もあつた様でありますが、現在では、そうした氣分も薄らぎ、人心は封建的保守性の強い素朴な農村の感じを受けて居ります。

今、文化村建設の指標を高く掲げて全面的前進に警鐘が打ち鳴らされているのが現在の狀態であります。昭和七、八年頃、町村政の不振から、地方自治の振興策が提唱され、時代の動きとして、各町村共一様に町村是の樹立が行はれた記憶があります村の將來発展を見越した積極性のある計画が、企図されたことは言う迄もない事と思います。從つて其の当時から計画された事項が其の通りに力強く継続実行されていたなら其の効果は現在の町村政の上に、画期的実績として、又は事業がもつと〳〵示現されていなければならないにと思はれます。然るに往時、鬱蒼と繁つていたと云う山林は、其の跡型もなく伐採されて治山の実なく、農家は次ぎ〳〵と木の香も新しい家屋に建替えられても旧態依然たる旧家造りで、文化住宅の現想に遠く、道路の改修も区々で後れていると云う一語につきるのです。生産面に於ける農事改良も時代と共に進んだと云う程度で特別の異色を持たない、勿論折角の村是が、中途半端に終つたと云うことに付ては、種々内面的事情もあつたに違いないと思はれますが要は指導の中断と云うことに帰すると思います。貴下は、それは何処の町村も同じ事だよと云はれるかも知れません。然し問題は其処にあると私は思います。

昭和二十二年から実施になつた農地開放は、國家の力で法律の力で、父祖傳來を誇る地主階級を一挙に撲滅させた大施策でありました。地主層の没落は誠に悲惨で同情に堪えないものがあります。之に引替へ小作農民層には終戦に依り思わぬ福音が訪れた。小作人が一挙にして自作農になるということは、敗戦國民の場合全く夢想だにしなかつた所であつたと想像されます。併し今日の結果から見ると、欲した施策でなく、與えられた施策だと云う感じが深い爲か爲政者が考えた程、小作人には自作農になつた感激と感謝の喜びはなく此の恩恵に生きて是が非でも此の際立派な自作農になり切らねばならぬと云う強い責任感と発憤心は余り期待は出來ない様であります。土地が安価に流れ込んで來たのは、一つに時代の御蔭であると云う感じの方が強いように見受けられます。之は或は私の偏見かも知れませんが地主が没落して、富が均分化された今日の農村は何にか知らん。生氣がなく、うら寂びしい感じが致します。

往時、私共の子供時代には、天を摩するような、欅の大木や、数百年を経た杉の老木や、枝を張つた老松が村の所々に見受けられ、村の由緒と歴史を語るかの如くでありました。それが此処数年の間に跡型もなく影をなくしてしまいました。丁度地主が影を没したが如くにです。民主々義思想の普及は、基本的人權の尊重と相併行して町村自治の上にも、又個人の生活の上にも自主性が強く要求されて居ります。が、事実は何れも期待とは反対の方向に進んでいることが判然と看取されることであります。自主的にと云うことは、自分の考えで自分の責任に於てと云うことでありますが、ともすると進歩性を喪うた保守性への逆戻りが考えられます。

生活改善が叫ばれた。其の会合の後で泥酔の余り喧嘩口論に花を咲かしたり、会食の跡、心にもない、おせじを以て客を引止めた爲、近所隣りへあわてゝ追加分の酒を借り廻る滑稽を何の反省もなく繰り返している農家の現狀に対しては、自主性の強調も、声を大にしての生活改善も、余り効果は期待されそうもありません。私の愚見ですが、貴下の村のことは知りませんが、矢張り今日の農村に対しては強力なる指導啓蒙施策が必要だと考えられることであります。充分村の施策を村民に納得させて行く村政の行き方が必要だと云うことであります。

或る有識の人が注意して云うには村を良くする爲には、村民に対する強力なる啓蒙指導がまだ〳〵必要ですよ。それと共に、教育に力を入れることですよ。今日の農村は教育の力に依る以外発展進歩を望む道はありませんよと、極論されるのです。

自分の村の悪い面ばかりが私の目に映るのかも知れませんが、地方自治の基礎づけとして期待される村民の自主性を幾らかでも土培うて行くとすれば、強力にして継続的である指導推進力が先ず必要であると云うことに思い到るのですが、然らば其の強力にして継続的である推進力を一体誰が引受くべきか、結局問題となるのです。此処迄思い到ると、私も農村自治の向上伸展を前にして、腕を撫して長嘆すと云うていたらくであります。本日は是で失礼致します。折角貴台の御健祥を祈ります。敬具

## 方城村の林野

農業会館林業部長　永野久雄

植林と言えば殆んど杉、檜、松に限る様な考え方であつた方城村内の山野は実に村面積の六〇％に当る廣範な土地。之を合理的に経営する事は最も急務なりと考えられる。

今回農業会館（縣下に於て初めての建設）運営事業の一つとして林業部は之を取上げ急速に実行に移して居る。治山治水の面では縣行造林の増殖（畑側二〇町歩弁城側一〇町歩）之は松、檜、弁城奥ケ畑に展示林として欅（岩石地）一反歩。くぬぎ（木炭用材）一町歩殖林するよう既に準備を終え（縣より苗木の送着を待つている。尚新品種（最も早く短期間に收材出來るもの）を改殖し経済好轉を計る爲め縣林業試驗場に当時経済課長現公民館主事、荒木氏と同道出張）交渉の結果、場長來村、中島技師は二回に渉つて來村試驗地の現地調査をせられ、弁城に三ケ所畑に二ケ所の試驗地（各一反歩）を指定して左の苗木を本年植付ける事に決定した。モリシマアカシヤ（皮よりタンニン酸を取り木は薪炭用材八年から十年位で伐採）セコイヤ（アメリカ杉一見檜の如く建築用材特に土台には最も適し腐蝕せず約十五年で伐採）モクマヲ主としてボタ山地帶に適すると いわれる樹種で將來は坑木としての利用價値が大きい之等の試驗を行い幸いに本村の地味氣候が適し好成績を挙げ得たならば方城村林野資源の開発と治水の問題一大革新がもたらされるであろう村民各位と共に期待は大きい。

# 納税について

（財務課）葛原忠彦

私達がどんな職業に就いても先づ第一に頭に來るのは税金でありましよう。國税、縣税、市町村税を通じ各種の税金が年中絶えず私達の生活に深い関連性を有するのであります。此の税金については憲法第三十條に「國民は法律の定めるところにより納税の義務を負う」と日本國最高の権威ある憲法に義務づけられているものでありまして、明らかに國民の最大義務の一つになつているのであります。

非常に固い事を申す様ですが此の様に義務づけられたゆえんは今更私が茲に書き並べる必要はなく已に皆さんが充分御承知の事であります。

私達が日常生活する上に於きまして隣人との交り職場の関係、同職の関係等如何なる人も他の人との交りがあるのであります。所謂共同生活を営むものでありまして恐らく一人では生活は出來ないでありましよう。

此の共同体が或る地域々々に集合体を作り町や村を構成し大きくは國家を構成しているのでありまして村を単位に取つて見ますと沢山の人が個々に自分の仕事を営んでいると同時に「村」の中の一構成分子としての權利と義務が與えられているのであります。併も皆が皆村の道路や戸籍や配給や会計等をする事は当然出來ないので茲に皆さん方に代つて行政を司るものと其の行政に対し良いか悪いかを決定する決議機関によつて村政が執行されて行くのであります横道に外れましたが此の様にして自然に共同体（組合組織や会等）を組織しますと、その組合員或は会員はその組織体に対し幾何かの会費なり組合費を收める様になつています。可様な團体は小さければ小さい程その会員なり組合員が直接利益なり、權利等が生活と密接な関連が出て來るので喜んで納付するでしよう。ところが團体が大きければ大きい程個人とのつながりがない様な感じがする様になり会費や組合費を只で取られている様な氣持になるのが人情でしよう。

併し乍ら此れは考え方を大きく持たれて大きく利益がもたらされている事を考えられゝば極めて簡單に解決される問題でありまして例えば村税を納められるのは結極村の教育、文化施設、道路施設、社会施設、身分関係や土地家屋の權利等に支出され結極には納税者に還つて來るものであります。勿論納得の行かない税金は飽くまで村当局に対し説明を求め納得して納税されるのが皆さん方の当然の權利であることは言うまでもない事でありますし、尚又税金が如何なる面に使われているかを監視する權利も当然あるのであります。

此の点については村当局と致しましては前号でも述べた如く「ガラス張りの行政」即ち不明朗な行政の廃除に努力して居るのであります。

極めて廻りくどく述べましたが結論として村行政の基礎となり行政を円滑に運営して行く上にはどうしても皆さんから納めて戴く税金以外にはないと言う事を深く御考え下さいまして納税に御協力戴き明日の明るい方城村建設に皆で邁進致し度いと願うものであります。

# 村作り（二）

中山英雄

（前号の続き）

大字弁城は五の分館区から成立つていて山林約二百余町歩耕地約二百余町歩を有し戸数三百余戸人口壱千六百余人である。昭和二十四年度に弁城小学校の運動場拡張と幹線電動力線引込が立案され、これが二十五年度に完成した運動場の拡張には村費の助成は受けたが地元公民分館員として各戸から三日間の労力奉仕に依つて完成したうるわしい汗の結晶であつた。生れて始めて持つ鶴嘴やトロッコを始めて押す奥様方もまじつて眞面目によく働いて頂いた動力線の引込については弁城区の祖先が植付け撫育して頂いた大切な杉林を賣却せねばならぬ実情に立到つた当時村当局の奬励に依つて共同施設に対し助成するとの布告があつたので弁城三百戸の総意を以て農村電化が企画され当時の責任者永末半治氏は各分館長と打連れ当局に補助申請を行い当時二十万円の電化施設助成費として予算措置も講ぜられていた様であるが村内の反響が大きく申込者が殺到し配分に困ると云う理由で助成は打切られることになつた。

そこで弁城部落は一文の助成も受けられず予算に大きな赤字を出してしまつたので止むを得ず涙を呑んで祖先傳來の杉林の処分となつた。而し乍ら弁城区としては、これにひるむことなく講和記念事業として左の事業を計画し之が実現に努力して居る

一、二百余町歩の耕地から旱害不安を一掃する爲にダムの建設

二、治山治水の見地から

1、縣行造林　2、林業試驗林の設置　3、学有林の設置

三、林産物の経済的価値向上の爲に林道の開設以上の様な大事業を計画した

ダムの建設に就ては相当な経費と労力を要するので弁城区選出の村議農委分館長其の他代表を交えて懇談会を開き其の決議に基いて更に村当局及方城炭坑幹部関係要路の方々と協和会館に於て之が実現方について懇談会を開き幸いに各位の理解ある御協力を頂けることゝなり着々実現に歩を進めて居る縣行造林については三月中に十町歩の造林完了の予定であり林道も短距離ではあるが三月中完成の段取りであり試驗林学有林も既に林業試驗場の御支援を頂いて三月中に植付完了の予定で既に地拵も出來上つた講和後の新らしい村をどうして作るかと云う事は我等に與えられた大きな課題である。願くば村民各位の意見を交換し眞に平和な明るい豊かな文化方城村を作ろうではありませんか。（筆者は弁城区常務往時の弁城村長で時代感覚に鋭敏且つ企画性に富む実行家であります）

# 時報　三月号メモ

## ★ブックルーム

| 閲覧者数 | |
|---|---|
| 官公吏 | 39 |
| 炭鑛 | 33 |
| 農業 | 28 |
| 商工業 | 9 |
| 学生 | 24 |
| 生徒 | 28 |
| 児童 | 25 |
| その他 | 11 |
| 無業 | 15 |
| 計 | 212 |

| 被讀書冊数 | |
|---|---|
| 総記 | 23 |
| 哲学 | 9 |
| 歴史 | 11 |
| 社会科学 | 43 |
| 自然科学 | 8 |
| 工学 | 3 |
| 産業 | 47 |
| 藝術 | 9 |
| 語学 | 0 |
| 文学 | 163 |
| 計 | 316 |

| 會友の讀書者新登録者 | |
|---|---|
| 学生生徒 | 2 |
| 一般 | 13 |
| 計 | 15 |

## ★ぶつくがいど

### 二月中入荷新刊紹介

西田幾太郎著、西田幾太郎全集、全十二卷別冊三卷。イリン著、人間の歴史。桑原武夫著、歴史と文学。石堂清倫著、社会主義経済建説論。東條操著、全國方言辞典。末弘嚴太郎著、法律小辞典。西田秋秒著、美術解剖学孜論。古市貞次著、中世小説。桑原正信等著、現代の農業経営。小倉武一著、農民と教育。マーク・ゲイン著、ニッポン日記上下卷。サマセット・モーム著、巴里の女。島木健作著、運命の人上下卷。立野信之著、太陽はまた昇る上卷。亀井勝一郎著、愛の無情について。小林一三著、新茶道。馬烽、西戒著、白樺天皇行狀記。南博著、異常心理学。清水幾太郎著、日本の思想。中俊三著できる子供できない子供。金森德次郎著、書物と人間。緒方竹虎著、人間中野正剛。立野信之著、太陽はまた昇る下卷。源代鶏太著、三等重役その他。

# 豫算編成の一考察

創造は建設の第一歩である。アンビネーションは誰もが常に想像をたくましくするものである。しかしあまり誇大妄想に陷つてはならない。

特に公に奉仕する者こそ現実を直視した実生活にマッチした思索に立脚しなくてはならない。村を創るにもあまりにも理想の追求に急にして村の経済に即應しない様であつてはならない。

事業に教育に衛生に方城村にもなさねばならぬ仕事は数々創造されるが、さて是を実現にうつす場台重点を何れに求めるかは仲々困難な問題である。

限られた收入で盛沢山の事業を実現せんとしてもそれは一遍の計画倒れに終ることをおそれる。

三月は昭和二十七年度の予算編成の月である。昭和二十七年は以上の様な氣持で本当に村民生活にマッチした予算にしたい。

四月には経済白書も発表したい、村民各位もよりよく村経済の実態を直視して監視と鞭韃をおこたりない事をお願いする。

# 昭和二十七年度農業會館運營計畫について

経済係

先般の第五卷第一号及第二号に依り昭和二十六年度の農業会館運営について記載いたして置きましたが、昭和二十七年度は本格的に活動いたしたく、先月（二月十三日）農業会館運営委員会を開催し、左記事項につき協議いたしたのであります。

農業會館運營委員會協議事項

昭二七・二・一三　於農業会館

一、運營委員會について

(イ)会議の開催について年二回程度

(ロ)各専門部員会について年六回程度

一、昭和二十七年度事業計画について

1総務部

(イ)昭和二十七年度事業計画に対する予算獲得について

(ロ)会館内容充実

(ハ)年二回部落農事指導

(ニ)各種講習会開催

2農藝部

(イ)昭和二十七年度米増産について

(ロ)稲麦採種圃経営

(ハ)稲麦採種展示圃経営

(ニ)保温折衷苗代奨励

(ホ)冷害地水稻適品種試験

(ヘ)病虫害共同防除班

(ト)米麦種子消毒及苗代消毒

(チ)苗代品評会

(リ)水稻及麦立毛品評会

(ヌ)農産物共進会

(ル)牛馬耕競犂会

(ヲ)蔬菜及果樹増産計画

(ワ)土壌酸度及成分検定の実施

(カ)会館実験室の活用

3畜産部

(イ)家畜飼養管理の改善

牧草栽培試験地の設定

(ロ)家畜健康検査の実施

(ハ)有畜農業酪経営

(ニ)家畜診療所設置

(ホ)畜産品評会

(ヘ)人口授精の普及

(ト)養鶏の奨励

4林業部

(イ)林業経営の改善

(ロ)林業試験地及見本園の活用

(ハ)椎茸増殖計画

(ニ)造林苗木斡旋及造林奨励

(ホ)松喰虫駆除

(ヘ)林道設置に関する土木係への協力

(ト)森林管理指導

(チ)縣行造林奨励及協力

5農地部

(イ)河川溜池水路農道の実態調査

(ロ)灌漑面積の調査

(ハ)各河川溜池の貯水量調査

(ニ)灌漑水不足量の調査

(ホ)農道及其他補修の有無調査

一其の他

当日の主な協議としては、当局の農業会館運営方針並に、右事項の各部問別行事の構想について開陳せられたのに対し、各委員の真剣な質問に依り意見の交換があり、慎重審議いたしたのであります。

結論といたしましては、昭和二十七年度の頭初予算の獲得に依り、詳細に亘る具体的計画については、四月に再審議の上実行に移す事として、午後二時散会した。

最後に一言附け加えて置きたい事は此の運営計画を強力に実施するには何としても、理解ある村会議員諸氏の絶大なる協力なくしては、机上の計画に終るのみである。村民各位も又しかりである。

## 教育宝くじのお禮

二月発賣の第七回福岡縣教育施設宝くじの消化に就いて締切り期日の切迫に際し二回の追加割当を受けましたにも不拘ず分館長初めB・S幹部の方々には大変御手数をおかけして完全消化が出來ましたこれも一重に村民各位の社会教育に対する御理解と御協力の賜物と心からお礼申上げます。

抽籤の結果に就ては既に新聞紙上で御承知の事でしょうが念の爲め各分館長宛御案内を差上げていますので奨金は当選券御持参の上公民館で現金と御引替下さい。

期日は一應五月二十二日迄となり爾後は勧銀と直接引替になっていますが事務の都合上成可く早く御引替をお願い致します。

# 北海道開拓青年協力隊感想文（二）

福岡縣田川郡方城村伊方畑

芦馬虎雄

（一月号の續き）

農村の最低生活の則例に依り眞剣にその線に協力しようとする者の、余りにも少い点、從來世界歴史の上に常に農民は、總ての階級の最低位に在り、常に被征服者の位置から拔け切れない宿命に在り、從って直剣に國家百年の大計に添う事の出來ない氣持、恐らく是等の精神的な点に於て、北海道開発は思う数割しか、成果が上っていないだろうと思う。

一面に社会的には、敗戰の結果として、数年後は何うなるか判らない。將來を考えるより、今日が大切だとの、所謂ジャアーナリズムな考え方も、その大きな原因とも言える。

其の他種々の原因に依り、分村計画に関心を示さないが、其の最も重大原因は現地を知らないからだと、北海道に歩を印した瞬間に斯く思つた開拓者の生活一日二日とする内に、その良さがつくづく身に泌みて、最早家の事等思わうとしようとしない豊かな悠々たる氣分となる。それは如何にして起るであろうか私は良く考え見た。第一自分の土地が有る。人に左右されない自由な氣持、將來えの夢、人に批評されない精一杯の動き、緑の大地、新しい土地えの期待と希望、眞実自分の土地えの愛情以上総括した無限の希望であろう。人間真実の夢は何人も是を破る事は出來ない、斯かる意味で、一人でも多く現地を知りその生活を味う事が出來る事は、此の困難なる分村計画は期せずして出來る事だろう。斯うした点に於て、縣の吾々協力隊現地派遣は、重要な意味と成功と言はなければならない。

吾々の生々しい現地報告が、今後の入植に何の程度の結果を及すか未知数であるが、吾々の今後の運動と報告に依つて生ずる結果とを考慮した時その責任の重且亦大なるを痛感するものである。

左記各号に、その実態と感想を、先づ村民の皆様に、発表して以て、北海道の実情を幾分なりとも窺知出來れば、幸甚の至りと存じます。

人間が食うてゆく事を、実際に心配し出したのは、第二次世界戰後で、日本は小さな、四つの島に閉じ込められて了った爲、此の事は緊急重大な問題であります。

（以下次号）

# 青年の聲（二）

方城炭坑一区青年自治会員

（一月号の續き）

最後に自治会員の声として、炭坑は統一自治会を作り、青年運動の発展の爲、機関紙の発刊、文化研究会と活動しているが、村部の青年は今の所、沈滞の形であるから今少し現在の社会情勢に目ざめ、大いに活動されん事を期待す。

第一区青年自治会綱領

1、われわれは平和日本建設のにないてである事を深く認識し、その資格を名実ともに、身に付ける様努力しましょう。

2、お互いの長所を見習い、短所を是正し合う事に依つて、より良き人格を作りましょう。

3、あらゆる会合の機会に、社会人としての常識を高める爲め努力致しましょう。

4、お互に爭いをする事なく、明るい希望を持てる様努力しましょう。

# 文藝

## 詩

### 氣概

弁城駐在　光井数雄

天を仰いで我想う
悠久永遠の大空は
はるけき彼方果もなく
天地自然の偉大さに
只驚歎の外はなし
それに比べて人の世は
些細のことにこだわりて
くよくよするは何事ぞ
常に持つべし晴朗の
宇宙も吾の指呼の間に
收めて寄せる氣概あれ
高峯に登りて我想う
悠然廣大な此の大地
自己の脚下に今伏せり
幾百万年そびえ來て
四方を見下す頂きも
肉塊細き人間の
哀れ五尺の此の吾に
征伏されて横たわる
道を求めて登るとき
自然も遂に伏すべし
正道きわむる氣概持て
浜辺に立ちて我想う
見よ青藍の海原は
寄せては返す潮ざいの
等しきことを繰返し
変りなきごと見ゆれ共
同じき中に動きあり
大海静かに脈動す
天地自然も息吹あり
宇宙の動きやまざれば
豈人のみが止るべき
進取の氣概常にあれ。

## 三月農事メモ

農業改良普及員
技師　長尾智代喜

一、麥　○土入―土入の量を多くし、無効分ケツを抑えると共に倒伏を防止する。（土をよく碎いて、麥の葉に土をかぶせぬこと

○麥踏―三月以降の麥踏は行わぬこと。

○中耕―雨後除草を兼ねて、麥の根を切らない樣に浅く行う。

○追肥（穗肥）―穗肥は三月上旬から彼岸迄の間で、分ケツの少い時は稍々早目に分ケツの多いときは稍々遅目に施用する。施肥基準反当硫安三―四貫下肥は一二〇貫―一六〇貫程度とする。加里肥料の施用量が少い田では、塩化加里又は硫酸加里を反当一貫施用。

二、菜種　○中耕―除草を兼ねて、菌核病の花器の発生を防止するため浅く中耕を行う。

○追肥：菌核病の発生を少くし、結実をよくするため、開花始めに硫安を反当三―四貫施用する。

三、蔬菜作りの基礎問題

○硫菜の耐酸性について―蔬菜を上手に作るには其の蔬菜が、其の土地に適しているかどうかを知らなければならない。適していなければ、適する樣に改良しなければならない。酸性土壤であることを知らずに、ホーレン草を栽培すると、肥培管理がいかに上手に行われても、滿足な收量が得られないばかりか枯死することも珍らしくない。

次に蔬菜の種類が土壤の酸性に対して示す强弱を述べ石灰使用の參考に供し度いと思います。

○酸性土壤に非常に强いもの―うど・馬鈴薯

○酸性土壤に强いもの―大根、里芋、長芋、しようが、甘藍、南瓜、西瓜。

○酸性土壤に稍々强いもの―ナス、トマト。

○酸性土壤に中位のもの―カブ（スワリカブ）白菜ふだん草、とうがらし、甜瓜、越瓜。

○酸性土壤に弱いもの―牛蒡、葱、玉葱、分葱、胡瓜

○酸性土壤に甚だ弱いもの―チシヤ、ホウレン草、菜豆、豌豆、落花生、人參、

○石灰の使用法―酸性に弱い蔬菜の栽培に当りては土壤の酸性を知り、中和に要するだけの石灰を施用しなければならない。

土壤の酸性を知る最もよい方法は、農業会館に設備されている土壤の酸度検定器で検定して貰うがよい。

施用法は必要量の石灰を耕土とよく混合すればよい。もし浅く石灰を打込んだとすれば、蔬菜の根は酸性のよくなつた表土だけに伸長して、充分の收量を得ることは出來ないので深土迄よく打込むことを忘れてはならない。

「訂正」前月号の馬鈴薯の植付についての施肥量の処とあるのは貫の間違いでありますから訂正します。

## 方城ホトトギス句會句抄

通されし梅の障子のほと明く　香月　梅邨
玻璃越しに梅の影浴び縫ひ耽る　香月　梅窓
紅梅にかしづく如く檻の鶴　河原比佐於
炭塵の積る窓あけ鬼やらひ　梅崎　魁陽
梅月を得つゝ静けさとり戻し　逢坂　逝童
老梅にたてかけてあり大熊手　白石　芝山
閉会の辞に梅祭案内もし　白石千鶴子
梅白し丹の橋沈む神の池　年木積み小屋の如くに屋根を葺き　白石天留翁
刈草に棒突差しかつぎゆく　中原　一線
年の瀬や小店は小店の向きの客　押し迫る師走の用事ためて病む　坂本　雅城
百姓に夜は早きもの虫時雨　母がりは樂し栗あり柿が生り
秋風やラジオに尋ね人絶えず　香月　梅邨
借る家ときめたる籬の小菊見る　河原比佐於
馬肥ゆるすでに買手のありにけり　稻の出來うれし間もなくうんか沸く　逢坂　逝童
大夏炉焚きけぶらして豊前坊　黎明の霧飛ぶ岩にひれ伏して　石橋　梅園
病人に叱られながら秋刀魚燒く　一ト鍬に曳ける濁りや落し水　篠原　子晃
爾宜の來て英彦の御田の水落す　朝寒のこの道屈託なく通ふ　堀川　炭舟
訪ずれし孫に絵本の読初め　東　梵太
観梅や接待の茶にあたまり　観梅や茶を運び來る一農婦　白石天留翁

## 編集後記

疎開引揚復員者の持つ教養に依つて寒村にも文化の香りが均霑した事は事実である。

高津氏の永い朝鮮生活を通じて感受せられた郷土の盲点は大いに味うべきであろう。中山氏の「村作り」にも傾聽すべき数々がある。

こうした建設的な御投稿をお待する。棋客は駒さばきに依つて優劣を決する。時報も亦野に遺賢なからしむ可く努力して居る有爲の士よ埋木とならず進んで文化村建設に是非一役を買つて頂き度い。

編輯子は不馴れの中にも各位の身に余る御声援に御期待に副うべく、又は此の「方城」をよりよきものに育成して行く爲に驀命であります。

今後共に一層の御声援を切願して已みません何卒宜敷く